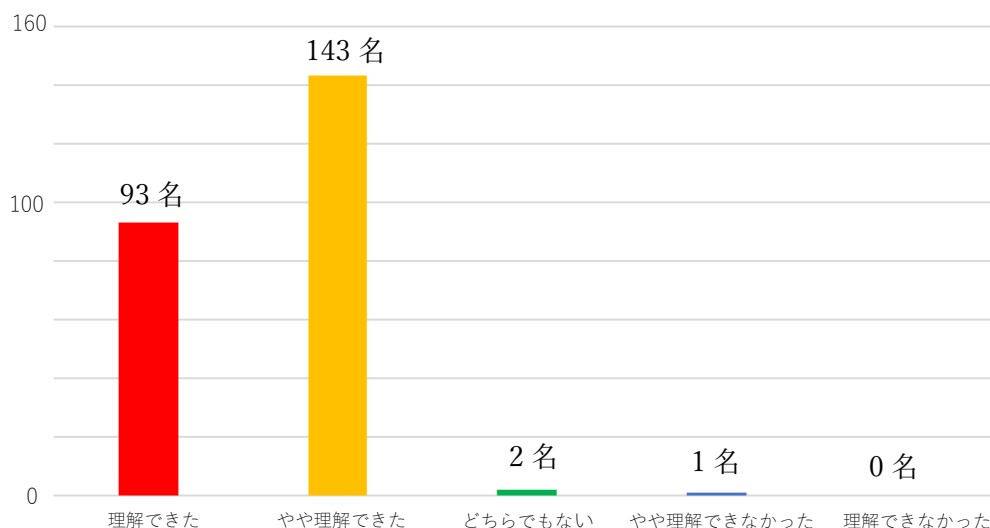


【オンデマンド配信】

アンケート 1) 『心腎関連』の講義に対する理解度



レポート提出 239 名中、9 割以上の方が理解できたとご回答いただきました。

アンケート 2) 本研究会のどのような点が特に役に立ちましたか (一例)

たくさんのご貴重なご意見ありがとうございました。

*なんとなく、腎臓内科と循環器が BUN、CRE、BNP のオーダーが多いと感じていたが、関連していることが改めて認識できた。

*以前、心エコーの検査をしていました。採血の検査データも見ながら検査を進める事の大切さを再認識しました。

アンケート 3) ご意見ご感想など (一例)

たくさんのご貴重なご意見ありがとうございました。

今回頂戴しましたご意見に対し、以下の通り、一部ご回答させていただきます。

ご意見①： ARNI を内服していると BNP が一時的に上昇と言っていたが具体的にどのくらいで上昇しますか？教えていただきたいです。

回答①：経口投与で、血中濃度のピークは約2時間（空腹時投与）、約4～6時間（食後投与）であり、速やかに吸収され、血中半減期は約12時間です。投与後から、治療効果としてNT-proBNPは著名に低下するも、BNPはそれとは逆行し、約4週～10週までは上昇（4週頃から低下するとの報告もありました）、その後NT-proBNPと同様の挙動で治療効果に応じて漸減していきます。よって、治療効果があるにも関わらず、BNPが一時的に上昇する点の注意が必要です。また、この段階ではNT-proBNPを測定することで、治療効果を確認することができます。

薬物動態は個人差もありますので、あくまで一例としてご参照ください。

ご意見②：24時間クレアチンクリアランスを施行する際の採血のタイミングですが、一部の医師から蓄尿の終わりと同時にやるべきとの指摘がありました。検査技師としては当日に大きな血清クレアチン値変動をきたすようなイベントがなければ、他の検査と同様に当日の朝の採血（と一緒）で構わないという見解です。ほかの病院の皆様はどのようにされていますでしょうか。やはり蓄尿の終わりに合わせて採血を行っている施設が多いのでしょうか？

回答②：生物化学分析検査研究班員に質問をしてみました。班内では蓄尿期間中の朝の採血と一緒に、血清クレアチン測定用の採血が提出される施設が多かったです。血清クレアチンのほかに採血依頼が無い場合は、蓄尿終了時に同時に提出されるという施設もありました。

採血のタイミングとしては、蓄尿期間中の早朝空腹時や昼前空腹時と記載されているものが多そうです。なかには蓄尿終了時や、蓄尿中であれば時間は問わないという記載もありました。こちらの意見を参考にさせていただき、ご施設で医師と相談して決めていただくのが良いかと思われます。

設問と回答

設問1) 腎臓が産生するホルモン・酵素は次のうちどれか。1つ選択してください。

- ①リパーゼ
- ②インスリン
- ③レニン
- ④アンジオテンシンⅡ
- ⑤アルドステロン

正答) ③

設問2) 一般的に UN/Cre 比が大きくなるのは次のうちどれか。すべて選択してください。

- ①消化管出血
- ②心不全
- ③健常人
- ④透析後
- ⑤腎機能低下

正答) ①②

設問3) 心腎連関のうち、慢性腎臓病(CKD) を起因として心血管疾患が生じる病態は次のうちどれか。1つ選択してください。

- ①Type1
- ②Type2
- ③Type3
- ④Type4
- ⑤Type5

正答) ④

設問4) NYHA 分類について次の内容に該当するクラスを1つ選択してください。

「安静時など非常に軽度の身体活動を行うにも症状を伴う心疾患患者」

- ①NYHA クラスⅠ
- ②NYHA クラスⅡ
- ③NYHA クラスⅢ
- ④NYHA クラスⅣ
- ⑤NYHA クラスⅤ

正答) ④

設問5) 次の LVEF (左室駆出率) のうち、HFpEF に定義されるものを1つ選択してください。

- ①10%未満
- ②30%未満
- ③40%未満
- ④40%以上、50%未満
- ⑤50%以上

正答) ⑤

設問 6) 次のうち BNP について説明するものはどれか。すべて選択してください。

- ①溶血の影響は受けない。
- ②生理活性をもつ。
- ③検体は EDTA 血の血漿である。
- ④検体は、血清である。
- ⑤血中半減期は約 3 日である。

正答) ②③

<まとめ>

2024 年 4 月研究会は昨年に引き続きオンデマンド配信にて実施させていただきました。事前申し込み 392 名に対して、239 名（うち県内 128 名、県外 111 名）の方がレポートを提出してくださいました。

今回は『心腎連関』をテーマに挙げ、心臓と腎臓の関係性や、心機能と腎機能のデータの読み方について、初心者からベテランの方まで分かり易い内容でお届けさせていただきました。私自身一つの臓器に注目して考えがちですが、各臓器を結び付けて検討することが大切だと学びました。また、生理検査を担当されている方からも複数ご意見を頂戴し、ご好評いただいたことを実感しております。ルーチン業務の際にぜひ今回の研究会の内容を思い出していただき、採血データや画像データなど多方面からの視点で症例を検討していただけると幸いです。

今回の研究会が皆様のご施設の精度維持・向上の一助となれば幸いに存じます。引き続き愛知県臨床検査技師会生物化学分析検査研究班をよろしく願いいたします。

以上

作成・回答編集・問い合わせ先：生物化学分析検査研究班

名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 中央検査科

伊藤 綾香

TEL：052-721-7171

E-MAIL：emc2206@nagoya-cu.ac.jp